

(別紙2)

平成30年度学業報告(実績)

(平成31年3月現在)

奨学金支給者	今年度における研究活動等
キン コウエン (32回生)	生物の進化を理解するための、昆虫の擬態、若齢幼虫から終齢幼虫の過程における色と文様の変化の研究。 「ナミアゲハ幼虫の体色と模様切り替えの分子機構」第15章執筆。
ブエンテイイ モリス ホルハ ファン (32回生)	パワーエレクトロニクス向けに、効率的なデバイス発展のためのナノ理工学の研究。 SONY、日立研究所等でインターンシップに参加。
メイ ピュウ トオ (32回生)	本革、毛皮等、高級素材を扱ったパターンメイキングの習得。 パターンメイキング技術検定試験2級合格。文化祭ショー縫製担当として、小型ファンを入れたバルーン・ドレス制作。
リ ナナ (32回生)	武田泰淳「上海の蛍」論—トイレより汪兆銘を思う(全編)の研究。
高久保 香子 (32回生)	北京大学国際関係学院にて、国際関係学、国際政治を中心に学ぶ。 上海の法律事務所でインターンシップに参加。
オウ エン (33回生)	H2AやH3等のコアヒストンがマウス胚のDNA修復にどのように関わっているかを解明するため、DNA損傷がマウスの細胞期胚に及ぼす影響を研究。
セキ エイ (33回生)	研究テーマ「九鬼周造の哲学における情緒論について」の論文を基に、デカルトの「情緒論」と比較し、情緒の定義、分類、適応性について考察し、二つ目の論文を投稿。
タテフ ババヤン (33回生)	デザインや美術の基礎の勉強。ペンダント、真鍮バンダ、インテリア・アクセサリ(カトラリー)、有線七宝の絵、張り合わせリング、浴衣の帯留め等の作成。 文化学園大学「絆」プロジェクトのコラボレーションコンテストにて研究会特別賞を受賞。
ニジャト ラフマン (33回生)	タハチ川の氾濫の主な水源は、雨の降水と雪の融解によるもので、氾濫の原因はその時に発生する転波列に関係すると考えた。そのため、転波列の発生メカニズム等を確認するため、水理模型実験を行い、数値解析後、氾濫防止策を検討する。
チョウ キチセイ (33回生)	NEXCO 総研が実施したサービスエリアのトイレ器具利用実態調査のデータを活用し、既存器具数を比較・検討した。また、待ち行列理論も用いて4か所のサービスエリアの適正器具数を算定し、その算定結果を既存器具数とNEXCO法の算定結果と併せて比較・検討した。
ヤン ジュレン (33回生)	沖縄県宮古島地下ダムのある砂川流域を選び、現地調査を通し、渇水年から豊水年における水涵養プロセス及び水質変動メカニズムの研究。 日本地下水学会春季講演会発表。

<p>保谷 朋子 (33 回生)</p>	<p>歴史学都市史からロンドンの地理的拡大というテーマで研究を進め、そのために必要な統計データの分析や社会構造についての専門知識の習得に力を入れている。また、18世紀の都市史の著名な研究者であるロウイー・スウィート博士による都市空間と表象に関連した専門課程を受講し、より専門的な表象文化について学んだ。</p>
--------------------------	---